

磐城時報

日刊 第九十日
編輯 磐城時報編輯部
印刷 磐城時報印刷部
發行 磐城時報發行部
社址 磐城市本町
電話 磐城時報電話

平の都市計劃

愈々本格的に準備

地方委員會富安技師等

平、小名濱兩町の實地調査

平町の都計法實施申請に對し、舊實地踏査を開始道路網計
画二十八日內務大臣から指定され、住宅地計劃、其の他實地的
れたので青沼町長は箱崎技師に研究資料を蒐集再び青沼町長
命じ此れが實施に要する各般の具體的打合せの上十九日は
調査を開始するに準備に努めて同都計實施の小名濱町に向
つた、折柄去十七日日本縣都市計同業調査を開始したが、此の實
地調査は富安技師は橋本技師地調査により平町、小名濱町の
手を從えて來平青沼町長を訪問し都計實施も愈々本格的に準備を
諸般の協議後箱崎技師の案内で開始その實現に邁進する筈であ
る。昨十八日早朝から地域決定に對する。

魚市場町營に同意

漁業組合から正式回答

小名濱町會は留保

小名濱町の町營魚市場問題は町
の交渉委員が組合側と屢々接衝
を續けた結果組合側も使用權を
組合に一任する事を必須條件と
して同意する事になり十五日左
の如き回答を爲した。
即ち町當局よりの交渉に對する
漁業組合からの回答原文は
一、漁業組合は町が漁港改善の
計畫に賛同する爲め町營魚市
場設置に關し左の條件により
同意すること
一、町營魚市場使用權は漁業組

合に一任すること、但し使用
條例は漁業組合に於いて制定
し町の承認を得ること
一、町は漁業組合の事業施設に
對しては適當の援助を與ふる
事
一、漁港改善の設備は町と漁業
組合と協力して施設する事
一、町營魚市場使用料は左の割
合に依り漁業組合より町に納
付する事
一、縣外廻船、郡内廻船、地船
一、事業の完全を圖る爲め會計
監督の派遣を請ふ事、此の場
料理店、カメラ等では營業の

新川改修工事

縣費支辨川編入

今十九日縣報で告示

平町南方を貫流する新川の縣費制限時間を超えて深更二時三
支辨川編入運動は平町、内郷、時頃まで營業を續けてゐる者が
飯野三村聯合水害豫防組合で數多いので警告を發してゐるが當
年前から猛烈な運動を繼續して業者は依然態度を改めないの
るが、縣では殆んど毎年汎濫 憤慨近々特別執行を開始して徹
する新川の復舊工事に一ヶ年一底的に取締る筈である。

四倉匡教 道路完成

二十二日竣工

四倉町本町通り郵便局前から海
岸に通ずる道路改修工事は既
の通り總工費一千四百圓を投
て去十二月起工二月初旬完成
豫定であつたが工事進捗した
で豫定を繰り上げて來る二十
日午前九時から竣工式を舉行
する事になつた。

赤井役場改修

赤井村では役場廳舎の腐朽甚
しいので村當局では工費二百
圓に對し、縣費補助を申請す
る事になつた。

私生兒認知の請求訴訟公判

大野村の農婦入籍を迫り男に拒絶されて

當時大野村大字大河原農野々
の私生兒傳(ニツ)が同村石
井傳二を相手取り平區裁判所
私生兒認知請求の訴訟を提起
争中であつたが今十九日證人
開あり近く第一回公判開廷を
模様である、事件の内容は
原告傳の母タラは去昭和七
年六月十六日夜被告石井と知
り情交關係を結び遂に妊娠し
昨八年九月十二日傳を出生再
三入籍を迫つたが石井は言を
左右にしてきかず遂には情交
關係さへも否定せんとするに
至つたもので前記訴訟の提起
を見たが成行を注目されてゐ
る。

愛谷堰水利議員改選

定員超過三名で激戦

二十八日平町會議室で執行

愛谷江普通水利組合の組合會議
員十四名中半數七名の任期満了
による改選は來る二十八日午前
八時から平町會議室に於いて
八時から平町會議室に於いて
候補十名で定員超過三名各町村
による改選は來る二十八日午前
八時から平町會議室に於いて
候補十名で定員超過三名各町村
による改選は來る二十八日午前
八時から平町會議室に於いて

納税成績良好

前年度に比して約一割の増加

肯はれる一般の好況

平町當局では目下納税の督促に
比すれば約一割以上の増加
を示してゐるが、此れに就いて
吏員總出動で活動を續けてゐる
が特別税戸數割の指定納期限ま
でに納附の成績は合計五萬三千
八十三圓三十二錢で總額の六割
二分四厘に達して居り、此れを
前年度指定納期までの四萬二千
九百八十八圓五割三分六厘の成績
と語つて居り、其の後督促令狀

多情な人妻

末子を連れて家出

坑夫上りの館屋と戀の道行と洒落たか

内郷村宮字宮澤磐城炭坑夫栗
桶屯の妻ミツ(四一)は去十三日
末子のミチ(三才)を連れ出して
無断家出行方を晦ましたので八
方捜査手配したが不明なので今
十九日平署に捜索方を願出た、
ミツは年に似合ず常にあぐら
化粧を凝らして浮氣者の評判あ
つたが昨年十月頃まで附近に住
んでた元坑夫松木隆生(五七)が失職後綿綿
松田松之助(五七)が失職後綿綿

赤井村税調査總會

赤井村税調査委員會は此の程
同村小學校に於いて總會を開催
會長田久彌七、副會長矢野采
女、以下略と決定した。

盗む白鼠

四倉署に檢舉

安達郡新殿村大字杉澤生れ當時
双葉郡久之濱町字南町酒井元廣
方雇ひ人笹野百次郎(一九)假名
は昨年十二月二十六日主家の第
一の抽斗より金十圓を窃取しな
は倉庫内より製材せし板を窃取
しこれを他に賣り飛ばして遊興
に費消した事を佐藤駐在巡查に
探知逮捕され四倉署に引致し根
本署長取調べの末犯行を自白し
たので將來を戒戒し歸宅せしめ

鼻の薬「チクノール」

山野邊藥局

鼻の抽斗より金十圓を窃取しな
は倉庫内より製材せし板を窃取
しこれを他に賣り飛ばして遊興
に費消した事を佐藤駐在巡查に
探知逮捕され四倉署に引致し根
本署長取調べの末犯行を自白し
たので將來を戒戒し歸宅せしめ

賀狀片々

(下) あきら生

平瀨 佐川 滿壽莊
皇太子殿下 御降誕最初の新年
を迎へて皇室の御繁榮と國運の
隆昌とを祝福します。

舉國ごよむ日嗣の皇子の生れ
ませる よごごにかはす年は
ぎの聲。

奏瑞や壽詞に御慶言ひかはし。
御降誕さて新年もおめでたう。
好間 金 成 向 峰

戸を明けて初東雲や
粉雪降る。

好間 吉田 青柳子
迎へぬど早や十四の明けの春
元日や鎮守は集ふ日の出會。
湖に澄む裏磐梯や初御空。

時代の要求 正月廿三日迄で 夜間十時迄で

和洋家具百貨大陳列大安賣會

東 京

十ヶ月掛 其他蓄音器 毛織物製品豊富

白河 大平 五花村
成年をこれから生まん
初日の出
磐崎 久田 狂水
非常時の日本へ初日恭進ら。
片寄 文 狂

無爲無我に
生きて七十一の春。
尚書家の名筆もあり、
書家の犬年に因める繪葉書もあ
ります。が、こゝらで先づ讀者諸
君の御健勝を祈り、つたなき數
音を添付して、お笑ひさにもと
思ひます。

佐々木 顯

つごもりの忙しかりにし
子を連れて今朝は楽しく
初詣です。

男の兒等は當初すみたり元朝の
雑煮の膳にうれしみ向ふ。
乳香兒の片言ながら母ならば
言へることごとよく聞きわくる

油類各種

田卷商店
平町二丁目 電話四一五番

草履類荒物雜貨

大竹草履店
平町紺屋町三三

山形屋旅館
宿泊料金六拾錢以上
内郷村小島長橋際

會津桐製下駄

野木はきもの店
平町聚樂館隣

難波醫院

内 科
小 兒 科
入院 應 需
自炊の便あり

平町 大町
電話五〇二番

士博學醫
睦 波 難

石 炭
コークス
豆 炭

氷室
水野石炭商店
平郵便局通り
電話二九九番

産科 婦人科

午前宅診
午後往診

平町字仲田町

井坂醫院

電話五五九番

◎入院隨時
◎自の便あり

十全の……豆炭

▲十全の豆炭は理想的家庭燃料で代價は木炭の三分の一
火持のよい事木炭の五倍です

▲二十個の豆炭をコンロに入れ消し炭とさせて火を起し二
升の飯を煮き上げて煮物、燻物、吸物をこしらへお茶を
沸かし

▲あとの火を三個の火鉢にとりわけて一夜を暖かく家庭の
閉鎖に送り……

▲残り火をお炬燵に分配して明日のお費過ぎまで夜具をあ
たためます。

豆炭販賣の元祖
菅野屋商店
平町四丁目 電話一五七番

山崎合名會社

福島縣平町

明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

電話(營業部専用)一〇番
電話(一般用)二七番
振替東京一九七五五番

安齊外科醫院

元赤心堂病院

電話四七五

外科 一般外科 内臟外科
性病科 X光線科

入院隨意(自炊の便あり)

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正 男

平町田町(電話五八番)
藤田女學校前

耳鼻咽喉科専門

(入院のお需めに應ず)
(自炊の便あり)

病室完備 X光線科

平町南町

上田外科醫院
電話一二九番

◎入院應需

御婚禮用 特價販賣

釣洋服タンヌ製造元

本丸ほん

營業所 福島縣平町三丁目
電話三五九番
振替東京二七二四番
製作所 平町新田町
電話一八二番

専門内科一般

内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン

平町南町六五改(電話一八一番)

川井内科診療所

醫學士 川井 重之
女 醫 川井 安子

貸切車の御用命の際は

是非電話六四〇番 尼子タク

新車も購入致しました

平町二丁目
電話六四〇番